

～学んだ手段は？かけたお金は？予算感は？～ 年齢帯別 学び事・習い事実態調査

【20～34歳】VS【35～49歳】VS【50～64歳】

- 「学び事・習い事」の手段は、「スクール・教室に通学」。女性では実施者のほぼ半数を占める
- 趣味目的の習い事にかかる金額は、年齢帯にかかわらず男女とも大きくは変わらない
- 仕事や資格取得目的の講座が多い「一括払い」で支払った金額は、20～34歳が最も高い

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山口 文洋）が企画・運営する講座・レッスンの資料請求・予約サイト『ケイコとマナブ.net』は、学び事・習い事事情を把握するため、全国の働く男女を対象に「人気おケイコランキング」調査を実施しています。今回はその結果をもとに年齢帯別（20～34歳、35～49歳、50～64歳）に比較した調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。なお、結果は『ケイコとマナブニュース！』でも紹介しています。<http://www.keikotomanabu.net/news/>

参考資料：<https://prtmes.jp/a/?f=d10032-277-pdf-1.pdf>

結果の要約

◇学んだ手段、学ぶ頻度 ～年齢帯別比較～

…参考資料 P.4～5

- 「学び事・習い事」に用いる手段は男女ともに「スクール・教室に通学」
- 独学、通信講座、スマホ・PCを用いた学習などは男性の方が利用率が高い
- 通学の場合、学ぶ頻度は男性の方が高くなる傾向

学び事・習い事に用いる手段は、女性は全年齢帯で50%前後、男性も40%前後と「スクール・教室への通学」を利用した人が圧倒的に多かった。他に女性の全年齢帯および男性の20～34歳では「ジム、フィットネスクラブ」、女性の50～64歳で「カルチャーセンター」といった手段も利用されており、学習においてリアルの場の価値を高く評価するカスタマーが多いことがうかがえる。一方、独学、通信講座、スマホ・PCを用いた学習といった、自宅や通勤時間を活用した学習については女性よりも男性の方が利用率が高い結果となった。また、通学における学ぶ頻度については、女性よりも男性の方が週3回以上と答える比率が高く、男性の方がいったん学ぶと決めたら集中的に学ぶコースを選択していることがうかがえる。

◇支払方法・支払金額、学びの予算 ～年齢帯別比較～

…参考資料 P.6～8

- 支払方法は男性で「一括払い」が多く、女性（特に50～64歳）で「月謝制」が多い
- 「一括払い」では20～34歳の支払金額が最も高い
- 趣味目的の予算は年齢帯であまり差がみられないが、仕事・資格の目的でかけられる金額は、女性は20～34歳、男性は50～64歳が高くなる

支払方法は一般的に、仕事・資格取得目的の学び事・習い事の場合一括払いの比率が高く、趣味目的の場合は月謝制の比率が高くなるが、調査結果はそれを反映した結果となった。月謝制や趣味目的では実際に支払った金額もかけられる金額も、年齢帯による差はあまりない。一方仕事・資格取得目的の場合、長期・高額な講座を選ぶ可能性の高い20～34歳の金額が高め。男性の場合、第二の人生への投資の性質が強いからか、50～64歳で上昇する結果となった。

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/